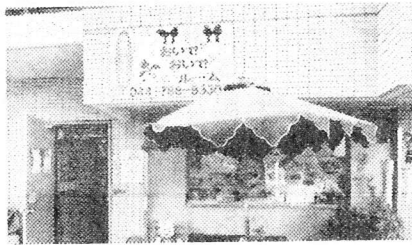


おいでおいでルーム



おいでおいでルームは、「頑張らなくていい子育て」「みんなで支え合う子育て」をスローガンに、異年齢の子どもがあ

そび合える場所として2008年にオープンしました。地域に開かれた場所として、保育園に長く勤務されていた代表の伊東さんと、子育てサポーターのママボランティアさんたちで運営されています。

かわさきサポート基金では、主に家賃部分を寄付で応援してください、という呼びかけで、多くの方から目標額を上回るご寄付をいただきました。いただいた寄付を大切に使うために、運営もできるだけお金をかけずに楽しくできる方法を考えて実施しています。

クリスマス会は子どもたちの発表の場

今年のクリスマス会では、ゲストを呼ぶのではなく、子どもたちがヴァイオリン、ダンス、クリスマスソングを披露します。ルームを利用して英語やヴァイオリンの教室を行っています。ヴァイオ



リン教室は、川崎公益活動助成金で知り合った楽遊協会の方が講師になってくださっているとのこと。

オープン当初に来てくれている子どもたちは今小学生になっています。ダンスで活躍するのは2年生チーム。会場はお隣の介護施設「らいふ武蔵新城」のホールをお借りして、おじいちゃんおばあちゃんも一緒に発表を見てもらうことになっているそうです。お隣という立地を生かし、季節の行事などで高齢者の方たちとの交流の機会を持っています。

みんなで一緒にご飯を食べる

おいでおいでルームでは、みんなでお昼ご飯を食べましょう、と呼びかけています。離乳食の食べさせ方も、細かく教えてもらうことができます。お弁当や買ったものでももちろんいいのですが、日によっては、手作りのランチを手ごろな値段でいただくことができます。

伊東さんは、退職した時に調理師免許を取得したそうです。ランチのきんぴらなどのお惣菜も持ち帰りができ、お母さんたちはとても助かり、おいでおいでルームには大きな収入源になっています。

ママさんボランティアのみなさんも、日常のルームの運営やイベントの企画・運営を担い、生き生きとした表情をされています。寄付も活かしつつ、自律的な運営を目指しながら、ますます地域で必要とされている場となっています。(ぐらす・かわさきスタッフ/広岡希美)

